

|       |   |      |        |
|-------|---|------|--------|
| 授業科目名 | ダンスワークショップ実習D   | 担当教員 | 深澤 南土実 |
| 必修の区分 | 選択  |      |        |
| 単位数   | 2単位   |      |        |
| 授業の方法 | 実習  |      |        |
| 開講年次  | 2年第4クォーター   |      |        |
| 講義内容  | この授業の目的は、ダンスの創作的ワークショップを通じて、企画やコーディネートセンス、またクリエイションの意識ないし技能を会得することにある。授業の内容は、担当教員の選んだ外部講師とともに創作しながら、そのことを学ぶもので、今回の創作テーマは、但馬の自然の力を象徴する「水」を予定している   |      |        |
| 到達目標  | 1. 企画やコーディネートセンス、クリエイションの意識ないし技能を幾分かでも会得する<br>2. 担当教員や外部講師、他の参加者たちとコミュニケーションを取り、限られた時間を生産的に過ごして、作品を形にすることができる<br>3. 創作体験を内省し、創作の急所や体験の核を、他者に伝わる言葉やイメージで書き残すことができる   |      |        |
| 授業計画  | <p>今回の創作テーマは、但馬の自然の力を象徴する「水」です<br/> (但馬の観光資源である温泉や海や雪、また洪水災害の川など)<br/> 外部講師は、コンタクトインプロヴィゼーションの技術をベースとするダンスカンパニー<b>Monochrome Circus</b>の振付家です<br/> 創作の例(CAT編)として想定しているのは、同カンパニーの2019年の作品『<b>FLOOD</b>』です<br/> *この授業は6日間の集中講義(1日約8時間程度)となります</p> <p>事前: 創作に関する調査や研究(リサーチ)</p> <p>1日目: a.リサーチの確認と共有、b.声や身体感覚を開くワーク、c.協働性を高めるワーク、コンタクトインプロヴィゼーションの基礎ワーク1</p> <p>2日目: a.前日のワークに関する意見交換、b.声や身体感覚を開くワーク、c.協働性を高めるワーク、コンタクトインプロヴィゼーションの基礎ワーク2</p> <p>3日目: a. 前日のワークに関する意見交換、b.コンタクトインプロヴィゼーションの基礎ワーク3、c.スライドや映像を用いたレクチャー&amp;ディスカッション、d.クリエイションに向けての意識づけ、感覚やイメージの共有</p> <p>4-5日目: a.クリエイションの稽古、b.意見交換と調整、c.リハーサル、d.フィードバックと再調整、e.ショーイングに向けての準備と総確認</p> <p>6日目: a.ショーイングに向けての準備と総確認、b.ショーイング、c.全体の講評を含むフィードバックと意見交換</p> |      |        |

|                |  |
|----------------|--|
|                | 事後：レポートの作成   |
| 事前・事後<br>学習    | 通常の12週講義で週2時間程度の事前・事後学習を念頭においています  |
| テキスト           | 特に指定しません   |
| 参考文献           | シンシア・J・ノヴァック著（立木燐子・菊池淳子 訳）『コンタクト・インプロヴィゼーションー交感する身体ー』（フィルム・アート社、2000年）ほか、適宜紹介します   |
| 成績評価<br>の基準    | 意欲は前提の上で<br>リサーチ10%：好奇心、探究心、調査深度<br>平常点70%：感受性、創発性、理解深度（到達目標の1から判定する）<br>レポート20%：内省力、考察力、表現力（到達目標の2から判定する）   |
| 履修上の注意<br>履修要件 | 「ダンスワークショップ実習（A~C）」を履修していることが望ましい。この授業はダンスワークショップ実習最後のもの（D）であることから、ダンスに特化したクリエイションを試みます。今回の外部講師が専門とするコンタクトインプロヴィゼーションの技術を求めることはしませんが、受講者は、この授業では運動量が多くなること、また身体的な接触が密になることを承知しておいてください。6日間の参加を原則とします。日時をしっかりと確認しておいてください |
| 実践的教育          |  |
| 備考欄            | 外部講師と相談の上、教育の質保証ならびに授業の運営（安全）確保の観点から受講者の上限を20名とします。<br>*疫禍等、社会状況に伴い、講義内容を始めとするシラバスの大幅な変更を余儀なくされることがあります。   |